

いな総の福祉

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。
福祉の授業クラスでも、新しい年を迎え、気持ちを新たにがんばっていこうという気持ちが満ちています。

さて、この「いな福」では、本校で介護職員初任者研修を受講している生徒の授業を中心に伝えているのですが、実は、本校の福祉科目はそれだけではありません。「福祉や介護・医療系の進学や就職は考えていないけど、これからの時代を見据えて、少しでも福祉の見方や考え方を学んでおきたい。」と考える生徒が受講できる福祉の科目があります。今号と次号では、その科目のうち「コミュニケーション技術」と「介護総合演習」の授業について紹介します。今号は「コミュニケーション技術」の授業についてです。

「コミュニケーション技術」の授業では、その名の通り、コミュニケーションの技術について学習していきます。本年度は、授業目標を「コミュニケーションに関する基礎的な知識・技術を習得し、多様な人とのコミュニケーションにおける課題を発見し、創造的に解決できる。」と設定し、1年間を通して、多様な人とのコミュニケーションのあり方を学んでいます。



コミュニケーション技術の授業では、演習を多く行います。

演習を通し、生徒たちは、コミュニケーションの技術やよりよいコミュニケーションのあり方について理解を深めていきます。

4月の最初の授業では、生徒たちに「そもそもコミュニケーションとは何ですか?」「何を達成できたら、コミュニケーションが取れたというのですか?」と、「コミュニケーション」という、わかっていそうで、わかっていない言葉の意味について、ゆさぶりの質問を投げかけ、教科書の定義を紹介しながらコミュニケーションという言葉について理解を深めました。その後は、「開かれた質問・閉じられた質問」、「傾聴・受容・共感」、「強みに注

目するストレングスの視点」などの技術を学び、その応用として、視覚障がい・聴覚障がい・言語障がい・認知症等がある方のコミュニケーションのあり方を、演習を通して理解を深めました。また、チームにおけるコミュニケーションのあり方を「介護ロボットを介護施設に入れるか、入れないか」というテーマで会議を行う演習を通し、チームとしての活動のメリット・デメリットについて理解を深めました。



【聴覚障がいのある人とのコミュニケーションを考える授業】

生徒たちは、演習での体験を通し、聴覚障がい、単に聴こえないだけの障がいではないことに気づき、聴覚障がいのある人とのコミュニケーションのあり方について理解を深めていました。

こうした授業を通して、生徒たちは、教師から学ぶということももちろんあるのですが、それと同時に、生徒たち同士で学ぶ姿が多く見られました。毎回の授業で配布するワークシートに授業を通した自分の気づきや思考や行動の変容を記入し、それを生徒同士が読み合うことで、自ら気づき、自分の行動や考えを広げ・深めていました。また授業の中でグループワークやペアワークを通し、他者の意見を尊重しながら、よりよいコミュニケーションとは何だろうと、仲間と共に探究する姿勢が見られました。

こういった活動は、物事に対する考えの広がり（視野の広がり）や物事を多面的に捉え、創造的に解決する（思考の深さ）を育むことにつながり、毎回の授業を通して、生徒たちはたくましく成長を続けていました。

AIの進化、グローバル化など変化の激しい社会を生き抜く生徒たちにとって、多様な人とのコミュニケーションのあり方や、そのあり方を探求し続ける姿勢は、生徒たちの強みの一つとして、これからの人生を支えてくれるものと私は思っています。この授業で育んだもの、自らの力や仲間たちと協力して獲得したものを活かし、一人ひとりが自分の人生を主体的に生き、自分らしい未来をつかむことを心から願っています。



お互いのワークシートを読み合い、自分の考えを広げ、深めていきます。生徒たちは毎授業、一生懸命に自分の学びに向き合っています。